

◆コロナ禍における エコツアー検証事業

令和2年11月12日(木) 12:45~15:00

【場所】ロープウェイ下谷駅舎~成就社

【ツアー実施】(株)旅tabitabi.info

【参加者】愛媛県自然保護課担当氏はじめ関係者計6人

【事務局出講者】曾我部英司事務局長、岩本昌美事務局スタッフ



愛媛県の検証事業で成就地区のガイドを担当させていただきました。今回は特にコロナ感染予防のため、検温、手指消毒、マスク着用などの対策をとって実施しました。とはいえ、マスク着用での登山は息苦しくもあるので、ガイド中に時折マスクをとれる環境も設定しました。

例年ならば新年度の4月から11月までに数十件の成就地区のガイドを実施していますが、思えば、これが今期初めてのツアーガイドとなりました。感染症対策をとればツアー催行は可能なのでしょうが、ご参加の皆様の登山口までの移動距離などを考慮すると、今ひとつ自主ツアーの実施には二の足を踏んでしまいます。とはいえ、ツアーガイドを久しぶりにしてみると楽しくもあり、こちらの勉強にもなることを再確認した次第です。ホント…感染症の終息を願うばかりです。

当日は好天ながら、紅葉はすでに終わり、かといって霧氷などの冬景色にはまだ早く…正直、自然観察には印象が弱い時期ですが、いかに楽しく来山を印象的なものにするかはガイドの腕次第…。こんな時は特に曾我部事務局長の話術が炸裂(笑)。ご参加の皆さまには「楽しかった」、「勉強になった」との感想をいただきました。ありがとうございました。ではまた、石鎚山でお会いしましょう！

ご支援ありがとうございます

石鎚山の学校は16年目を迎えました。当団体の活動は、皆様のご参加・ご協力ならびに、会員の皆様の会費・寄付金などに支えていただいております。心より御礼申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。新規のご入会もお待ちしています。

正会員69名
/年会費5千円
賛助会員53名
/年会費3千円
団体会員3団体
/年会費3万円
(令和3年7月末現在)
団体会員様(順不同)
セキ(株)
(有)石鎚観光
(株)愛媛銀行

一期一会・石鎚山系の表情

~秋本栄さんに石鎚山系の写真をご提供いただきました~



新型コロナウイルスの感染拡大が続く、お山へ足を運ぶのも難しい状況が続いています。

アマチュア写真家の秋本栄さんも、毎年開催されていた「石鎚山系手作り額写真展」が昨年に続き中止を余儀なくされ、撮影についても昨年・本年と大幅に控えておられるとうかがいました。そのような状況下ですが、本新聞のために石鎚山の写真をお願いしたところ、スケールが大きく息をのむような作品をご提供いただきました。

石鎚山は望む場所によって変化に富んだ姿が見られることが魅力の一つですが、そのことを改めて感じさせられます。さらに、時間によっても様々な表情が見られるのです。まさに一期一会の情景に見入ってしまいます。

コロナが早く収束し、例年のように手作り額に収められた1~3畳サイズの写真の世界との再会を心待ちにしています。

写真【上】岩黒山よりパノラマ 【中】幻想の朝(瓶ヶ森より)
【下左】紅葉のご来光 【下右】大流星の夜(瓶ヶ森より)



石鎚山系の花前線~新緑前線~紅葉前線

(松井宏光 石鎚山の学校理事、愛媛植物研究会会長)

4月下旬、街のソメイヨシノより半月遅れで石鎚山の麓でヤマザクラやエドヒガンが咲き始め、石鎚山は遅い春の訪れとなります。サクラ類で最も遅く咲くのは、石鎚山の稜線近くにあるイシヅチザクラで、5月中旬に満開となります。

5月になると西之川や面河溪など山麓では、サクラに代わってツツジが主役となります。岩尾根ではアケボノツツジやヒカゲツツジ、溪流沿いのキシツツジ、落葉樹林ではトサノミツバツツジ、オンツツジの開花が始まります。アケボノツツジは4月中旬に西之川や面河溪で開花し、その花前線は一日約40mの速さで上部に広がり、土小屋や成就を通過するのは5月上旬、頂上近くまで達するのは5月中旬です。

アケボノツツジに一足遅れてブナやカエデ



アケボノツツジ

類、シデ類など落葉広葉樹の若葉が展開します。成就やスカイラインから頂上を遠望すると、黄緑色の新緑前線がアケボノツツジの花前線を追いかけるように頂上の南北斜面を上っていくのがわかります。アケボノツツジの花が終わる頃には石鎚

山全体が新緑で包まれます。

9月になると成就や土小屋ではミヤマアキノキリンソウ、テバコモミジガサ、イシヅチウスバアザミなどキク科やミヤマヒキオコシやオオマルバノテンニンソウなどシソ科を始め、多くの秋の花が咲き始めます。また秋は実の熟す季節で、9月にはオオカメノキやナナカマドの赤い実が目をはきまします。

10月初め、山頂付近ではナナカマド、ナンゴクミネカエデなどの葉が赤く色づいて

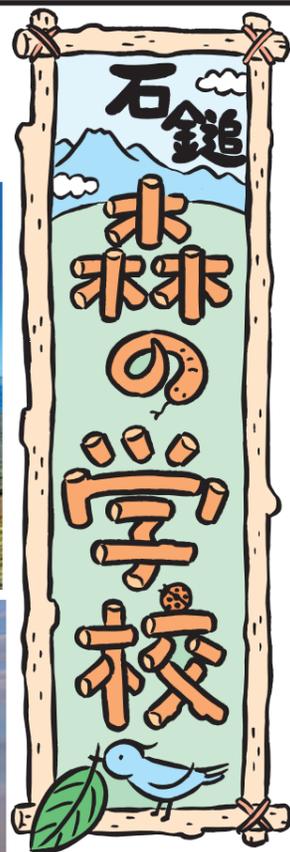


オオマルバノテンニンソウ



オオカメノキ

石鎚の紅葉が始まります。紅葉の帯は春の花前線と反対に頂上から山麓へ下がるのです。紅葉前線は花前線より少し早く一日約50mで山肌を下り、10月の終りころ西之川や面河溪に達します。そのころには、紅葉前線を追いかけるように頂上から薄茶色の落葉の帯が降りてきます。11月半ばになると頂上では初雪が降り、石鎚山は4月までの長い冬を迎えます。



【石鎚山の学校】VOL.17

2021年度号

発行日 2021年8月

制作 NPO法人 石鎚山の学校

〒793-0062 西条市西田甲797番地

Tel & Fax 0897-52-5275

URL <http://ishizuchi.net/>





笹原にある瓶壺

石鎚山の神様は、男の神様でお名前を石鎚毘古命（いしづちひこのみこと）といいます。キラリとした眉で、目元の涼やかな美男と伝えられています。そして、その神様の住む石鎚山のふもとの町、西条市は古くから水の都とも呼ばれ、「うちぬき」というとても綺麗でおいしい自噴水が有名です。

ずーっとむかし、安芸の宮島に住む麗しい女神様、市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）が石鎚山の神様に逢いにきました。石鎚山の神様は、海をこえて



瓶ヶ森からのぼる朝日

石鎚山の神様と瓶ヶ森

(標高1897m)

瓶ヶ森ものがたり

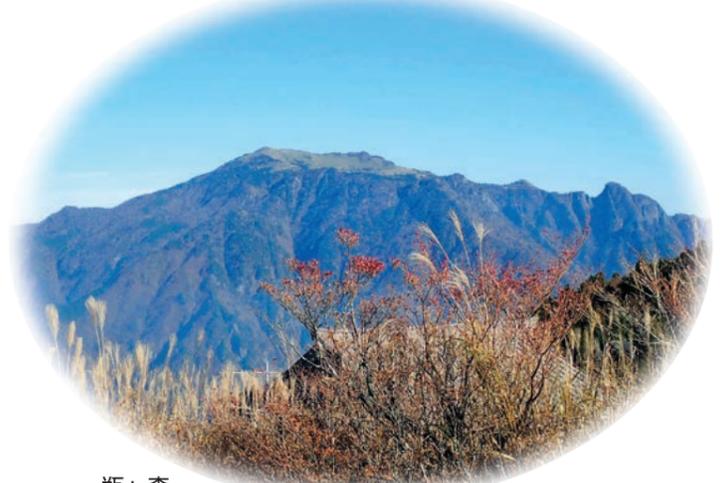
はるばる逢いにきてくれた女神様を、とても綺麗でおいしいお山の水でもてなしました。「女神様、このお水は天の神様が高原（たかまのほら）で大切に（おつかいに）なる天眞名井（あめのまな井）のお水です。どうぞめしあがれ。」



瓶ヶ森から望む石鎚山

※実際に今も瓶ヶ森には、笹原を縫って清流が流れ込む深さ2メートル、幅1.8メートル程の壺状の水たまりがあり、瓶壺と呼ばれています。その水は万病に効くともいわれています。

※石鎚山に抱かれた石鎚村には、このお話を元にした「お山の水」という民謡があつて、かつて孟蘭盆には村のお堂やお宮の境内に集まって、長い間歌い踊り継がれていました。



瓶ヶ森

国で故郷を思い出すたびにこのお山に登りに来ます！これを聞いた石鎚山の神様は、優しい笑顔をうかべながら、「石鎚山は、大変けわしいお山です。女神様がたびたび登れるお山ではありません。でしたら、あの東の山のなだらかな頂に大きな瓶を置いて、この水を溜めることにしましょう。」と。



美しい水をたたえる瓶壺

石鎚山で出会った鳥たち

当団体スタッフの人見義一さんが石鎚山で撮影した鳥たちをご紹介します。

(参考:「愛媛の野鳥観察ハンドブックはばたき」愛媛新聞社)



◀ゴジュウカラ

全長13.5センチ

写真がひっくり返っているのではありません。幹を上下に移動するのが得意。ブナの森にすんでいます。「フィーフィー」というさえずりも成就周辺でよく聞かれます。



▶ヒガラ

全長11センチ

カラ類では最も小さいけれど、頭にちょこっと冠羽があってカッコイイというか、カワイイですね。針葉樹が好きで、てっぺんで「チーペーペー」と早口で鳴きます。



◀ミソサザイ

全長10.5センチ

日本最小クラスの鳥ですが、声量のある美しい声で、長く複雑にさえずります。懸命に鳴く姿に感心します。なかなか姿は見つけれませんが、鳴き声はよく耳にします。



▶オオルリ

全長16.5センチ

こちらさえずりが見事なこと有名。オスは頭から背が鮮やかな青、のどが黒、腹が白と美しく、人気者の鳥です。メスは地味な暗褐色です。

石鎚登山ロープウェイ Gondola

石村嘉成さんの作品に新装!



本年4月20日、石鎚登山ロープウェイの下谷駅と成就駅を運行する Gondola が新装され、お披露目式が行われました。Gondola「いしづち」「まえがみ」をラッピングしている絵を制作したのは石村嘉成さん。自閉症という発達障がいを持ちながら、生き物を力強く生き生きと描き、県内外で個展も開催する人気の作家です。Gondolaには、石鎚山の頂上、羽ばたくタカ、ふわりと宙に浮かぶ天狗、「山に挑む」の文字などが躍動しています。緑に映える色合いで、心が弾みますね!

石鎚山の昆虫

体長は2センチくらいで、頭部にオス・メスともに一対の突起(ツノ)があり、黒くて、ツヤツヤしているので、ツノクロツヤムシ。クワガタの仲間です。

石鎚山では登山道で休憩しているときなど、倒木などに出会うことができますが、四国と九州のブナ林に限って分布する日本固有種なので、とても貴重です。

成虫はブナなどの朽木にトンネルを作って生活します。メスが産む卵の数はたいへん少なく、成虫は朽木をかみ砕いて幼虫にエサとして与えます。昆虫ではたいへんめずらしい行動です。



写真撮影: 飯田貢さん
翅は退化していて飛ぶことができないため、あまり移動できず、生息するブナ林と運命を共にすることになるのでしょうか。